


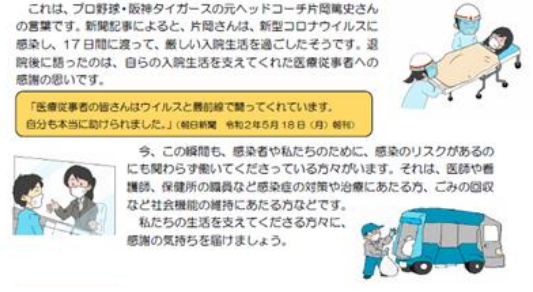
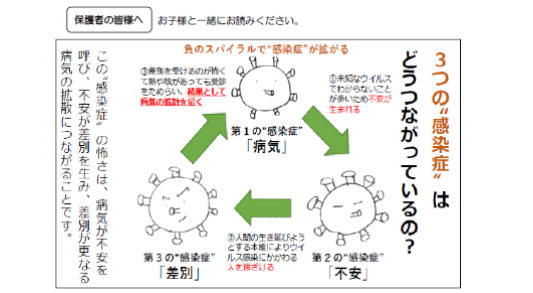
新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別意識の解消を図る指導資料

「止めよう差別の感染 広めよう感謝の心」について

新型コロナウイルス感染症が全国に感染拡大する中、感染者、濃厚接触者、医療従事者、社会機能の維持にあたる方等とその家族に対して、偏見や差別につながるような行為が起きています。

以下の指導事例等を参考に学年段階に応じて、朝の会、ホームルーム、学級活動、保健指導等において、別添の教材をぜひ御活用ください。

【教材を活用した指導事例】（10～20分程度想定）

学習内容 ・ 指導上の留意点	教材
<p>1 新型コロナウイルス感染症感染者等に対して、社会には偏見や差別意識があり、それがなぜ起こるのかを考え、絶対に許されないことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症は誰にでも起こりうることであり、偏見や差別意識をもつことは許されないことを理解させる。 医療関係者、保健所の職員など、社会機能の維持にあたる方等とその家族に対する差別にも触れる。 なぜ偏見や差別が起こるのか、また、自分たちはどうすべきかを考えさせる。(参考 保護者の皆様へ) 	
<p>2 感染者の回復や私たちの生活のために、必死で働いている人がいることを知り、その方々へのメッセージを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染者の体験談から、医療現場の方がいかに大変な思いをしているかを想像させる。 他にも、保健所の方、清掃に携わる方等たくさんの方々が、生活を支えてくれていることを理解させる。 メッセージを考えることで、その方々への感謝の気持ちをもたせるとともに、偏見や差別意識をもつことは誤りであることをあらためて確認させる。 感謝の気持ちをメッセージカードに書かせて集約し、近くの事業所等に届けることも考えられる。 	<p>☆</p> <p>「ウイルスと最前線で闘ってくれている」</p> <p>これは、プロ野球・阪神タイガースの元ヘッドコーチ片岡篤史さんの言葉です。新聞記事によると、片岡さんは、新型コロナウイルスに感染し、17日間に渡って、新しい入院生活を過ごしたそうです。退院後に語ったのは、自らの入院生活を支えてくれた医療従事者への感謝の思いです。</p> <p>「医療従事者の皆さんはウイルスと最前線で闘ってくれています。自分も本当に助けられました。」(朝日新聞 令和2年5月18日(月) 朝刊)</p> <p>今、この瞬間も、感染者や私たちのために、感染のリスクがあるのにも関わらず働いてくださっている方々がいます。それは、医師や看護師、保健所の職員など感染症の対策や治療にあたる方、ごみの回収など社会機能の維持にあたる方などです。私たちの生活を支えてくださる方々に、感謝の気持ちを届けましょう。</p> 
<p>※ 教材を基に、各家庭でも、感染者等に対する偏見や差別意識について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者にも読んでほしいことを伝える。 偏見や差別意識のもととなる「不安」を解消するためにも、正しい情報を得ることや差別的な言動に同調しないことが大切であることを理解させる。 	<p>保護者の皆様へ お子様と一緒に読んでください。</p> <p>3つの「感染症」は どうつながっているの？</p>  <p>この「感染症」の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が不安を呼ぶという悪循環を生み出すことなのです。</p> <p>① 第1の「感染症」「病気」 ② 第2の「感染症」「不安」 ③ 第3の「感染症」「差別」</p> <p>① 病気がうつるのを防ぐために、手洗いやマスクの着用、人と近づかないことなどが必要です。 ② 正しい情報を知り、不安を解消し、気持ちを落ち着かせることが大切です。 ③ 偏見や差別意識をなくし、差別を止めることが大切です。</p>

☆ 本教材の生徒用を作成するにあたり、資料で取り上げさせていただいた片岡篤史さんから掲載の許可をいただく際に、「東京の子供たちにぜひご活用ください。医療従事者には感謝しきれない思いをもっています。」とのお言葉をいただきました。